



矢口さんが基本設計を担当した埼玉県羽生市の大天白公園（通称フジ公園）は、市民から愛される公園となっている。

私が

造園コンサルタント

矢口正武

NPO法人

“元気・まちネ

ット”を立ち

上げた

理由

最近のコンサルタント業界は、見積価格のたたき合い

私の職業は、造園コンサルタントです。都市公園の計画設計から、各種リゾート地の基本構想計画、住民参加（ワークショップ）のまちづくり、個人住宅や集合住宅、マンションの庭や造園の基本・実施設計などが主な仕事です。この仕事は大好きで、自分では天職と思っています。ここ数年、諫早湾の干拓問題や吉野川河口堰問題、脱ダム宣言から新幹線駅建設凍結など、環境に関する話題がグローバルな形で議論され、専門ではない一般市民の間でも話題になっています。環境保護に直結する職業を選んだことに誇りを持っています。

しかし、広く一般に認識されてきた地球環境問題の大気汚染と健康、オゾン層の破壊、森林破壊、ヒートアイランド現象などが大きく取り上げられるようになったにもかかわらず、緑地の大幅な縮小などで、私たちが所属する造園コンサルタント業界は青息吐息の状態であります。なぜか？ 公共事業の大幅な削減、談合体質、設計料のたたき

合い、いい加減なコンサルタントなどが業界の信用を低下させていることに原因があるのです。が、そればかりとは限らないのです。

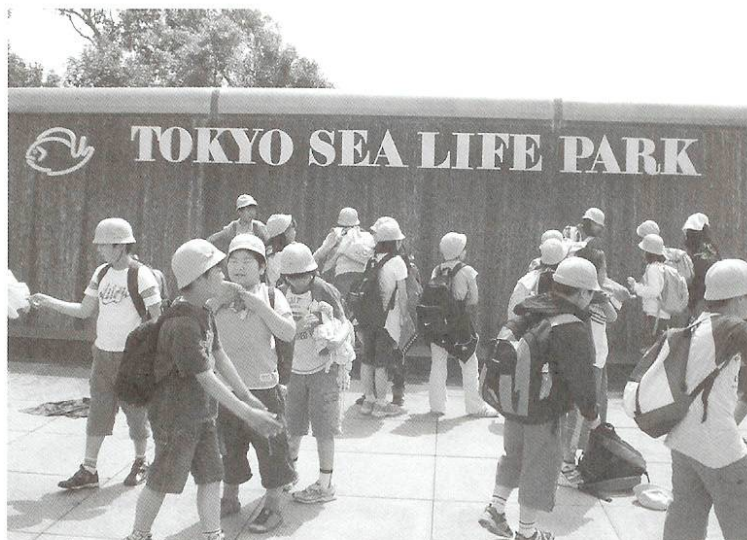
コンサルタントはいつも理不尽、不合理な目に遭わされる

確かに、コンサルタント側にも問題はあられるかもしれませんが。名称や固有名称・地名を替えればどこにでも提案可能な、ずさんなプレゼンテーションや設計報告書がまかり通ってききました。特にバブルのころはひどかった。『かがり火』44号でも、そのようなことを取り上げてもらったことがあります。最近でも、たった3カ月という短期間で作成された、自然に関する調査報告書というものを目にしました。自然は最低でも1年を通じて調査しないと見えてこない部分が多々あるにもかかわらず、夏から秋にかけてのたった3カ月で作られた自然の環境調査報告書を見るにつけ、この仕事を天職だと思っ携わってきた私にとっては、とてもショックな出来事でありました。

する首長の哲学がなかったり、首長が在任中に何らかの形（功績）を示したいがために前任者の業務を素直に引き継がない。これでは税金の無駄遣いと言われても仕方がない。その上、意味がないのに勝手に変更または止めてしまう。また、コンセプトが合意形成されて施工されているにもかかわらず、担当者が2〜3年で簡単に異動になる人事行政の問題点、これまでの業務の経緯が、前任者から新任者に正しく伝わっていないために、担当者や上司の個人的な趣味嗜好で簡単に変わってしまうなどは朝飯前であります（水や緑、遊器具に関することには、結構興味を持つ担当者が多いのも事実です）。

行政の財政事情が変わったために生じる設計変更は致し方ないこととは思いますが、専門でもない担当者の趣味嗜好で変更せられる側にとって、こんな屈辱的なものはありません。

「どんな仕事をしているんですか」と聞かれて「設計の仕事です」と答えれば、ほとんどの人は建築や土木設計だと思ってしまうがちです。「いえ、造園ですけど……」「ああ、植木屋さんですか」「いや、植木も入りますけど、公共造園といって……」



年中、訪れる人が後を絶たない東京都立の葛西臨海水族園（写真は入り口広場）も、胸の張れる仕事となった。

長い説明の後、「ああーそうなんだ。すてきな仕事ですね。面白そう……」という答えが返ってくる。

そう、面白くて楽しい、それでいてクリエイティブな仕事である。だけどもマイチこの仕事の

のことは知っている人は少ない。というよりはほとんどいないんじゃないかとさえ思います。

つい最近、『BEIPAL』（夏号）という雑誌に、東京・江戸川区にある東京都立の葛西臨海水族園のことが

カラー5ページにわたって掲載されていました。『水辺の自然』と

いう、かつては東京のどこにでもあった自然の小川を270mの距離に縮小、再生復元した水辺です。一見普通

に見えるこの水辺には、多種多様な生き物が自

然のままで生息しています。設計を担当したのは不肖、私です。

この『水辺』ができてから20年たった今でも、外来種に侵入されることなく、自然のままの姿で保たれています。ということ

は、東京都職員の方のためざる維持管理のためものでありま

す。私は今でも時々訪れては、観察しています。この5月にも、わが社にアルバイトで勉強に来ている学生を連れて見学会を行ったばかりです。自然は生き物で、この『水辺』も、当初よりも10年、20年と適切な維持管理を経ることによって、本当のありべき姿に変わっていきます。

また、千葉県成田市には坂田ヶ池総合公園があります。元は、背丈ほどもあるシノダケや葛の葉の密生した、手つかずの一面ヤブだらけの荒れた雑木林でした。平成5年から6年にかけて設計に1年半、工事に10年の歳月をかけて昨年完成しました。

私は幸運にも設計から完成まで、いろいろな立場で携わることができました。この10年の間に市の担当者は4代にわたり交代しましたが、担当者の引き継ぎがうまくいき、かつ、引き継いだ担当者も基本コンセプトをしつ

かり認識し、遂行してくれたおかげで、当初の設計とほとんど変わりにくく出来上がりました。こういうケースはごくごくまれであります。この公園には完成後も何度か訪れ、四季の変化を楽しみ、自分なりに記録を残し続けています。

失敗したケースもあります。これは設計が失敗に終わったの

ではなく、ある県のお偉い方々が替わったために起きたことであります。県民のためのレクリエーション施設と森の回廊や、もともとあった流れを復活させて自然観察が可能な小川や池の再現をする予定でした。毎月のように現地に足を運び、植生から地形まで何度も調査し、描いては消し、消しては描いて、模

型まで作って検討した思い入れの深いビッグプロジェクトでした。そうした作業を繰り返しながら合意形成をとり、やつとの思いで工事に入って間もなく、プロジェクトの方針は突然変わってしまい、当初の設計とは180度違った、何ともお粗末な公園が出来上がってしまいました。

新幹線に乗ってその公園が見えるところまでくると、昔の苦い思いが込み上げてきます。このように説明すれば、いろいろと苦労はあっても、とても面白く楽しい仕事だということ

がお分かりいただけると思います。すが、われわれの職種を広く認知してもらえないような業界一体となった広報活動は一切なかったように思います。今、就職を希望している女子学生の一歩の人

気職種は、企業の広報活動というデータも出ており、インターネット社会になっているにも

かわらず、この業界の広報活動はあまりにも寂しい限りです。かくいうわが社もホームページはありますが、情けないことに更新されていません。これから、ブログや掲示板などを利用して、われわれの業界を積極的にPRしていかなければならないと考えているところです。

コンサルタントの本当の役割

われわれコンサルタントの本当の役割とは何だろうか、ずいっと考え続けてきました。

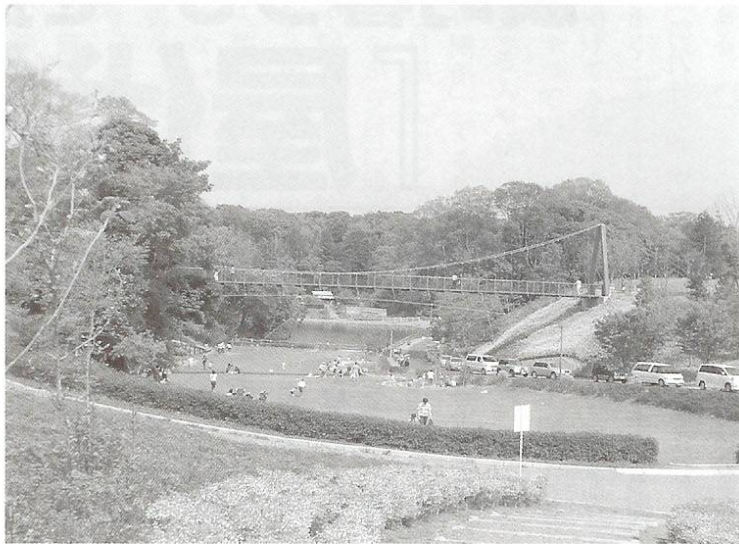
私は大手の総合コンサルタントに10年、造園の中堅コンサルタントに10年在籍し、89年に同僚と共に小さな事務所を開業しました。基本構想から実施設計・施行管理までかわれる事務

所を目指して18年になります。その間、趣味としてスポーツクラブ（トライアスロンとスキー）を主宰、自分の会社から幾ばくかの協賛をしてもらい、ユニホ

ームなどに会社のロゴマークを入れて自分なりに広報活動をしてきました。しかし、これだけで認知してもらえないほど世間は

甘くはありません。私が考えるこれからのまちづくりに必要なものとしては、①

①



担当者が替わってもコンセプトがしっかり引き継がれて立派な公園ができた。成田市坂田ヶ池公園（キャンプ広場と吊り橋）。

造園コンサルタントという職業を広く世間に認知してもらおうこと、②地方が抱える問題を一緒に考え分析し、方策を見つけること、③地方が持つ気候風土、自然環境、伝統芸術、観光物産などを抽出すること、④地域住民と時間をかけた討論を重ねること、⑤発注者（担当者）・地元住民との信頼関係を構築すること、⑥思い込みではなく思い入れのある診断ができること、などがコンサルタントに求められていると思います。

私は遊びを通じて、

2000年夏から長野県大町市のフィールドを借りて、自然体験活動をメインにしたアドベンチャーゲームズ（冒険遊び）というアウトドアスポーツイベントを夏と冬に開催・運営してきました（本誌102号に掲載）。今年7年目を迎えますが、北は北海道から南は熊本まで、これまで延べ2500人を超える参加者を集めています。行政や企業からの財政的な援助は受けずに運営してきました。地元の関係機関・関係者へ

のあいさつ回りから、協賛企業へのお願いまで、首都圏に在住・在勤するスポーツ好きな7人の仲間と共に、「余暇活動の一環として、ボランティアとして」携わってきました。

そして、地元の自然景観の発信から保全・保護、観光振興（資源）としての提案まで行っています。この経験を通じて、われわれのこのイベントは、その土地で長く自然を見つめ、地元の人々との交流があつて初めて達成可能なことだと気が付きました。地元のワーキンググループ会議にも招かれるようになり、提案・実践してきたことが大町市作成の「仁科三湖整備計画書」に掲載されるに至ったことは喜ばしい限りであります。

まちづくりのよろず相談窓口として利用してほしい

私たちがNPO法人「元氣・まちネット」を立ち上げようと思いついた経緯は、上記に説明してきたような知識や経験を基に、東京一極集中のまちづくりを変えてみたいと思ったからであります。地方には、都会にはない優れたものが大きく分けて三つあります。一つは、気候風土や豊かな自然環境。二つ目は、

昔から伝わる伝統芸能・芸術文化や物産。三つ目は、心優しいホスピタリティー（おもてなし）であります。これらの財産を発掘・活用することによって、バブルのころにつくられてきた「金太郎館のまちづくり」からの脱却は十分に可能であるとの確信を持つに至りました。

地方は市町村合併で疲弊しています。地方交付税や補助金を当てにしているわけにもいかず、早急に自立しなければならぬ時代に入っています。国や自治体も何から何まで地方の面倒を見てあげられるほど余裕はありません。市民が自ら立ち上がり、

「元氣なまち」を再生すべく、速やかな行動が求められています。このたび私が立ち上げた「元氣・まちネット」は、まちづくりの相談を受けるNPOですが、造園家・建築家、土木設計家などによる専門家集団です。長野県大町市で成功させたイベントのノウハウもあります。まちづくりに意欲を燃やす行政の担当者たちときめ細かく連携していきたいという気持ちもあつて「ネット」という名称にしました。地方に元氣になつてもらうための「相談窓口」として、われわれを利用いただきたいと思っています。

専門分野の環境整備と、にぎわいのあるイベントの両輪がうまくかみ合つてこそ、都市と農山・漁村の交流による活性化の実現が可能と考えています。

私たちは、リゾートや都市公園、美術館や多目的ホールなどの施設の建設が無駄だというつもりはサラサラありません。ただ、首長やお役人のための実績（功績）づくりの道具としての施設（箱物）整備は不要だと言いたいのです。本心に納税者のためになる、中長期的視点に立った施設建設や環境整備に税金が投入されているのかという疑問さえ持っています。

「自然と人のやさしさ」というかけがえのない財産を有効活用し、まちには活気があふれ、多くのゲストが訪れるようになってからの整備でも遅くはありません。いかにして税金の無駄遣いをなくし、財産を有効活用しながら、活気あふれるまちに再生できるのか、これからの地方の未来が、そこにかかっています。

連絡先（株）爽環境計画

〒130-0001
東京都墨田区錦糸3-7-11
03-3829-4691
FAX 03-3829-4692
携帯 090-5494-8699